

2016年度宮城県考古学会総会・研究発表会特集開催趣旨

2016年度宮城県考古学会総会・研究発表会では、昨年度に引き続き、東日本大震災復興事業関係調査に関わる特集を企画しました。

宮城県などの被災地では、沿岸部を中心に空前の規模の震災復興事業が進められ、それに伴う埋蔵文化財調査もかつてない規模で進められてきました。これらの復興事業関係調査は、調査事例がほとんど無かった地域でも行われており、沿岸部の歴史を考えていく上で、貴重な資料が得られてきています。残された調査もあり、調査報告書の作成にも多くの時間を要しますが、調査の成果をとりまとめて、地域での歴史研究や生涯学習事業、文化財保護事業などに活用していくことが、大きな課題であると思われます。

宮城県考古学会では、復興事業に伴う調査の成果を議論していく機会を作っていきたいと考えてきました。調査成果をもとに、広く意見交換する機会を持ち、調査成果の取りまとめに資することを旨したいと思います。被災地の歴史をより豊かに描き出し、地域の復興・再生のために、少しでも寄与することができれば幸いです。

昨年に続く第2回目として、宮城県北部の南三陸町の調査成果を取り上げます。南三陸町では、志津川中央地区の復興拠点整備事業に伴い、中世城館である新井田館跡の調査が行われました。丘陵上の城館のほぼ全域が発掘調査され、15世紀に築造された城館の全体像が明らかとなりました。これまで三陸地方の南部では、中世城館の発掘調査事例はほとんどありませんでした。新井田館跡は、この地域の中世城館の実態を知るための、貴重な調査事例です。

この3月に、新井田館跡の調査報告書が刊行されました。今回の特集では、新井田館跡の調査成果をもとに、三陸地方南部の中世城館について考えてみたいと思います。調査担当者から、新井田館跡の全体像を報告していただきます。その上で、宮城県域の他の中世城館跡との比較、近隣の朝日館跡との比較、文献史学からの論点について、3名の方からコメントをしていただきます。それを踏まえて、新井田館跡の調査成果の意義、そこから考えられる沿岸部の中世城館の特徴、その背景などについて、広く議論していければと考えております。

特集『復興関係調査で拓かれた地域の歴史2 南三陸地域の中世社会－新井田館跡を中心に－』
趣旨説明 特別委

復興事業関係調査の成果報告	南三陸町新井田館跡の調査成果	宮城県教委	村上裕次氏
コメント1	宮城県内の城館からの新井田館跡の位置づけ	宮城県考古学会	佐藤信行氏
コメント2	朝日館跡からみた新井田館跡	宮城県考古学会	田中則和氏
コメント3	中世本吉・気仙地域の論点－歴史学の立場から－	東北学院大学	七海雅人氏

意見交換